

農業技術情報

令和5年5月15日

池田町農業構造政策推進協議会

十勝農業改良普及センター

十勝東部支所 015-572-3128

J A 十勝池田町 572-3131

高島支所 573-2111

池田町産業振興課 572-3118

農作物の成育・作業の遅速(5月15日現在) ()内は平年値

作物名	遅速 日数	生育状況		農作業状況
秋まき小麦	+3	草丈 32.4 (31.6) cm 茎数 1,445 (1,509) 本/m ²	幼形期 4/28 (5/1) 止葉期 (5/26)	
ばれいしょ				植付始 4/25 (4/23) 植付期 5/1 (4/28) 植付終 5/8 (5/6)
大豆				は種始 5/12 (5/13) は種期 5/15 (5/16)
てん菜(移植)	±0	草丈 6.9 (7.6) cm 葉数 6.6 (6.1) 枚		移植始 4/20 (4/25) 移植期 4/29 (5/2) 移植終 5/8 (5/10)
てん菜(直播)	+1		出芽期 5/11 (5/12)	は種始 4/22 (4/18) は種期 4/25 (4/26) は種終 5/2 (4/30)
牧草	+1	草丈 32.8 (31.8) cm	萌芽期 4/8 (4/9)	
サイレージ用 とうもろこし				は種始 5/10 (5/10) は種期 5/15 (5/15)

※てんさいの移植平年値は3町の平年値とした

<秋まき小麦>

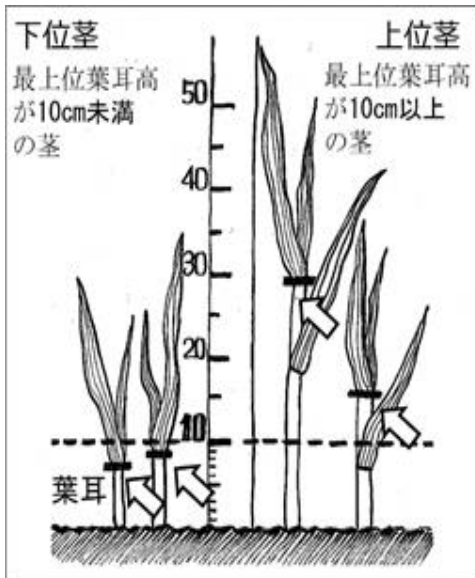
草丈は32.4cmで、生育期節は平年と比べ3日早く進んでいます。茎数は1,445本/m²です(5/15現在)。

★生育経過「きたほなみ」(池田町：5月15日現在)

	草丈 cm	茎数 本/m ²	幼穂形成期 月日	止葉期 月日	出穂期 月日
本年	32.4	1,445	4/28		
平年	31.6	1,509	5/1	5/26	6/5
遅速	+3		+3		

(1)窒素追肥

止葉期以降の追肥は粒重の増加やタンパク含量の向上に有効です。ただし、過繁茂(上位茎数900本/m²以上)や過度に葉色の濃い場合は倒伏する危険性や高タンパクになる恐れがあるため、生育に応じて追肥時期や量を検討してください。



上位茎数 900 本/㎡未満の場合

- ① 止葉期に窒素 4 kg/10a を上限として追肥
 - ※ただし、高タンパクが予想されるほ場では止葉期の追肥を行わないか、追肥量を減らす必要がある
- ② 必要に応じて、開花期以降に窒素 3 kg/10a を上限として葉面散布で追肥
 - ～ 葉面散布例：尿素 1.5%液 3回 ～
 - ※高温時の葉面散布はヤケやすいので注意
 - ※高温時は尿素濃度を下げる（例えば 1%に）

上位茎数 900 本/㎡以上の場合

- ① 開花期以降に窒素 3 kg/10a を上限として葉面散布で追肥

(2) 除草剤の散布～雑草も早めに大きくなっています～

雑草が大きくなりすぎると効果が劣るため、適期に散布を行いましょう。「エコパートフロアブル」は暑い時に散布すると薬害が発生しやすく、止葉に薬害が出ると減収するおそれがあるため、必ず止葉抽出前に使用するようにしてください。

(3) 赤かび病の防除

「開花期頃」に最も感染しやすく、多湿条件で多発します。1回目の適期である開花始めに雨天の恐れがある場合は、出穂揃いからの防除を検討してください。

出穂期

開花始め

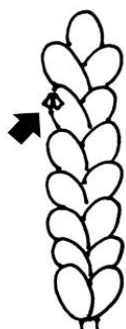
開花盛期

表 1 赤かび病防除時期の目安



早い

穂全体に薬剤が十分に付着しない



適期



遅い

すでに感染している可能性あり

回数	防除時期の目安
1回目	出穂揃～開花始
2回目	1回目の7日後
3回目	2回目の7～10日後

【ニバーレ菌による葉枯症状】

早期に多発すると収量に影響を及ぼします。過繁茂の場合は発生を助長するため、穂だけでなく下葉部にも薬液が充分かかるようにしましょう。

図 1 赤かび病防除開始の目安

表2 赤かび病の防除体系

回数	農薬名	使用倍率	DON 低減効果	対ニバーレ 防除効果	赤さび病	RACコード
1回目	バラライカ水和剤	500倍	●	●	●	M4・3
2回目	ベフトップジンFL	800～1,000倍	●	●		M7・1
	または ミラビスFL	1,500倍	●	●	○	7
3回目	シルバキュアFL	2,000倍	●		●	3
臨機	チルト乳剤25	1,000～2,000倍	●		○/●	3

※バラライカ水和剤を硝酸カルシウムと混用する場合は下記の順で混用してください。

- ①バラライカ水和剤→②硝酸カルシウム（物理性の問題により）

(4)倒伏軽減対策

茎数が多く倒伏リスクが高い場合は、茎稈伸長抑制剤の使用を検討しましょう。散布が遅れると効果が劣るため、散布時期を逃がさないよう注意してください。

また、薬害を助長する場合がありますため、他剤との混用は避けましょう。

表3 茎稈伸長抑制剤の使用基準

農薬名	使用時期	10a当たり 使用量(ml)	使用回数 (以内)
サイコセルPRO	出穂前20～10日 小麦草丈40～60cm	200～300	1回
エスレル10	止葉期～出穂始期	200～333	1回
カルタイムフロアブル	止葉期～出穂5日前	150	1回

<てんさい>

定植作業および直播作型のは種作業は降雨のため平年よりやや遅く終了しました。

活着・出芽状況を確認のうえ、ほ場の状態に合わせて、雑草対策や中耕作業を行っていきましょう。

★作業・生育経過「移植てんさい」(池田町：5月15日現在)

	移植始	移植期	移植終	草丈 cm	葉数 枚
本年	4/20	4/29	5/8	6.9	6.6
平年	4/25	5/2	5/10	7.6	6.1
遅速	+5	+3	+2	±0	

※平年値は東部3町の数値

★作業・生育経過「直播てんさい」（池田町：5月15日現在）

	は種始	は種期	は種終	出芽期
本年	4/22	4/25	5/2	5/11
平年	4/18	4/26	4/30	5/12
遅速	-4	+1	-2	+1

(1)中耕

- 計画的に「カルチ」等の施工を行いましょ

地温の上昇および透排水性の改善（深耕カルチなどの施工）、土壌の膨軟化、畦間の除草のために行いましょう

- 根の広がりを確認して中耕を行いましょ

生育初期には浅めに調整し、次第に狭く深くして畦間が茎葉で覆われる時期まで実施しましょう

- 注意！！株元までの土寄せは根腐病の発生を助長します

(2)除草剤の散布

- 除草剤散布のポイントは適期処理です

気象条件や土壌水分等を考慮し、生育と雑草の発生に応じた処理に注意してください

- 直播栽培は移植栽培と登録基準が異なるので注意！！

- 直播栽培の初回散布時期は、は種後 30 日前後が目安です

直播栽培の初回散布時期は雑草発生始～発生揃（てんさい本葉2葉期）ですが、てんさいの葉齢が進んでいない幼小個体では生育が抑制される場合があるため、注意が必要です

- 風害対策のえん麦は4葉期までに除草剤処理を行いましょ

直播栽培の風害対策でえん麦を混播した場合は、えん麦の4葉期までにイネ科除草剤（ナブ乳剤、ワンサイドP乳剤）による処理を行ってください。処理時、てんさいの生育が小さい場合は、ナブ乳剤を使用しましょう。

(3)アブラムシ類の防除

アブラムシ類の防除は早期に発生させないことが重要で、初期防除が大切です。

苗床かん注剤および直播ペレット種子内殺菌剤の残効期間は約 40～45 日程度のため、薬剤の持続期間を考慮し、アブラムシの飛び込みが多いようなほ場では防除を実施しましょう。

＜苗床かん注および直播のは種から残効期間を 45 日とした際の目安＞

- 4 月 25 日直播作型のは種→6 月 9 日頃
- 4 月 29 日移植苗のかん注→6 月 13 日頃

1 回目のアブラムシ類の防除	リーズン顆粒水和剤
----------------	-----------

＜ばれいしょ＞

植付作業は、降雨等のため平年より遅く終了しました。

今後もほ場の状況や生育状況に合わせて防除等を実施しましょう。

★作業・生育経過「メークイン」(池田町：5 月 15 日現在)

	植付始	植付期	植付終	萌芽期	着蕾期
本年	4/25	5/1	5/8		
平年	4/23	4/28	5/6	5/28	6/14
遅速	-2	-3	-2		

(1)中耕・培土

「カルチ」や「畦間サブソイラ」等により土壌の膨軟化と地温の上昇を図り、通気性や透排水性の向上に努めましょう。

＜早期培土の注意点＞

- 萌芽始までに行いましょう
- 培土時の土壌水分が高い場合や培土後 2 日以内に降雨が予想される場合は、培土が崩れたり、ひびが入るなど、緑化いもの発生の原因となるため避けましょう
- 培土後、ばれいしょ萌芽前の適度な土壌水分がある時に土壌処理剤を散布しましょう

<豆類>

種子消毒は必ず実施しましょう！！

は種は、慌てずに地温が十分確保されてから行ってください。

(1)は種板

目標とする栽植本数となるよう種子の大きさに合ったは種板を準備しましょう。

表5 栽植密度の目安

区分	栽植密度 (株/10a)	畦幅×株間の目安 (cm)
大豆「ユキホマレR」	8,300	66×18(2粒)、60×20(2粒)
小豆※ / 菜豆	8,300	66×18(2粒)、60×20(2粒)

※小豆「きたろまん」は5月下旬は種において、1.5倍程度までの密植(60cm×13.3cm(2粒): 25,100本/10a)により成熟期の前進および増収が期待できる(H31年指導参考より)。

ただし、倒伏が増加する事例があるため、生育旺盛なほ場では標準の栽植密度とする。

(2)種子消毒

ア 以下の条件ではタネバエに注意が必要です

- は種後低温が続き、出芽までの日数が長くなってしまう場合
- 土壌水分が高い
- 牧草・緑肥をすき込んだほ場
- 魚かす・鶏糞・未熟堆肥等を施用したほ場

イ クルーザーFS30 使用時の注意点

- ✓ 必ず殺菌剤(チウラム80または粉衣用ペアーカスミンD)と併用し、処理は クルーザー → 殺菌剤 → 根粒菌 の順で行う。
- ✓ 菜豆・小豆は乾燥するまでに時間がかかるので、早めに準備を行う。
(塗抹後乾燥に要する時間は、菜豆で5～6時間、小豆で1～3日)

ウ クルーザーMAXX 使用時の注意点

- ✓ クルーザーFS30より乾きにくいので注意してください。

(3)出芽率向上のために

- は種は地温が十分に上がり、遅霜の影響がなくなる時期に行いましょう
- 土壌の過乾燥が予想される場合は、再度鎮圧を実施しましょう

(4) 除草剤の散布

適期に散布を行い、除草剤散布後の降雨などの影響による薬害に注意しましょう。
豆類の生育や雑草の発生状況に合わせた効果的な散布を心がけましょう。

表6 豆類除草剤の使用基準（例）

農薬名	処理方法 使用時期	対象作物	10a あたり 使用量	回数	主な対象雑草の効果						
					シロザ	タデ	ハコベ	ツユクサ	ナギナタ タコウジュ	スカシタ ゴボウ	一年生 イネ科
ピンサイド 乳剤	土壌処理	大豆 小豆 菜豆	330～ 400g	1	○	◎	◎	×	◎	△	○
	は種後2～5日 (雑草発生前)										
パワーガイ ザー液剤	土壌処理兼 雑草処理	大豆 小豆 菜豆	200～ 300ml	1	◎	◎	◎	×	△	◎	△
	大豆・小豆： 出芽直前～出芽揃 菜豆： 出芽直前～出芽期										
コダールS 水和剤	土壌処理	大豆 菜豆	225～ 300ml	1	◎	○	◎	△ ～ ×	◎	△	◎
	は種後出芽前 (雑草発生前)										
フルミオ WDG	土壌処理	大豆 菜豆	5～10g	1	◎	◎	◎	△	—	◎	△
	は種後出芽前 (雑草発生前)										
ロロックス	土壌処理	大豆 菜豆	100～ 150g	1	◎	◎	◎	△	◎	◎	○ ～ △
	は種直後 (雑草発生前)										
バサグラン 液剤	雑草処理	菜豆	50～ 70ml	1	◎	◎	◎	△	○	◎	×
	初生葉展開期～ 本葉抽出始期 (雑草2～3葉期)										

※フルミオ WDG 散布に用いた器具類は、メーカー推奨の洗浄方法で洗浄する。

※パワーガイザー液剤は有機リン系殺虫剤や他の除草剤との10日以内の近接散布は薬害の恐れがあるため避ける。

(5)中耕

除草剤の残効を考慮し、地温の上昇と雑草対策のため中耕を実施しましょう。雑草対策のための中耕は、好天で日中の気温が上がる日が効果的です。

(6)大豆「わい化病」、菜豆(金時)「黄化病」(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)の防除

- 山間部やほ場周辺に牧草地がある場合は被害の拡大が懸念されます。
- クルーザーを使用していない場合や、多発した場合は出芽揃から初生葉展開期(目安は6月上旬)に1回目の防除が必要です。
- 2回目は出芽揃期の7~10日後に防除を行いましょう。

表7 大豆「わい化病」・菜豆「黄化病」の防除例

防除		農薬名	使用倍率	使用時期 (収穫前)	回数 (以内)	RACコード
回数	時期					
1回目	出芽期~ 初生葉展開期	ウララDF	2,000~ 4,000倍	7日	2回	29
2回目	1回目の 7~10日後	ペイオフME液剤	2,000倍	7日	3回	3A

<牧草>

★生育経過

(池田町：5月15日現在)

	萌芽期	草丈 cm
本年	4/8	32.8
平年	4/9	31.8
遅速	+1	+1

<飼料用とうもろこし>

★作業経過

(池田町：5月15日現在)

	は種始	は種期	は種終
本年	5/10	5/15	
平年	5/10	5/15	5/23
遅速	±0	±0	

野 菜

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。

薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

< たまねぎ >

1 除草剤の処理

土壌処理剤は降雨後など適度な土壌水分がある状態での散布が効果的です。ただし、散布後に激しい降雨が予想される場合は薬害を生じる恐れがあるので避けてください。

保護葉(オニ皮)になる葉身が伸張する時期以降の除草剤使用は、皮が薄くなり皮むけの原因となります(早生品種で出葉数6葉、中晩生品種で出葉数7~8葉の時期:6月上旬頃)。

表1 たまねぎ除草剤の使用基準(YES!clean)

薬剤名	処理方法及び使用時期	使用回数	10a当薬量	使用上の注意、特徴
いずれか一剤の使用に限る	ゴ-ゴ-サン乳剤 [移植栽培] 全面土壌散布 定植活着後(雑草発生前) 収穫30日前まで	1回	300-500ml	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>一年生イネ科および広葉雑草</u>に効果あり。 ・土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、降雨後に散布する。 ・激しい降雨が予想される時は使用を避ける。
	[直播栽培] 全面土壌散布 は種後~本葉2葉期 (雑草発生前)	1回	200-400ml	
	モーティブ乳剤 [移植栽培] 全面土壌散布 定植活着後(雑草発生前) 定植45日後まで	1回	200-400ml	
いずれか一剤の使用に限る	アクチノールB乳剤 [移植栽培] 雑草茎葉散布 生育期(雑草生育初期) 収穫30日前まで	2回	100-150ml	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>一年生広葉雑草</u>に効果あり。 ・夏期高温時の使用は薬害を生じる恐れがあるため、6月上旬までに散布する。
	[直播栽培] 雑草茎葉散布 1葉期~倒伏始期まで (雑草1~2葉期まで) 収穫30日前まで	3回	30-50ml	
	セレクト乳剤 雑草茎葉散布 (雑草生育期、 一年生イネ科雑草 3~5葉期) 収穫21日前まで	3回	50-75ml	

2 育苗ハウスの地力対策

・育苗ハウスは、緑肥を栽培することで、地力の向上や乾腐病などの病害の防止により、翌年以降の苗生育が改善できます。

・は種量は、緑肥用エンバクで15kg/10a、エンバク野生種(ハイオーツ、サイアー)で10~15kg/10aです。は種後2ヶ月を目安とし、結実前にすき込みましょう。

・ECが高く、塩類集積が見られる場合は灌水を行うなど、除塩対策を行いましょう。

< ながいも >

1 除草剤の処理

植付直後から萌芽前までに土壌処理剤を散布してください。

表2 ながいも除草剤の使用基準

薬剤名	処理方法及び使用時期	10a 当薬量	使用回数	注意事項
ゴーゴーサン乳剤	全面土壌散布 植付後～萌芽前 (雑草発生前)	200～400 ml	1回	—
ロロックス	全面土壌散布 植付直後	100～200g	2回	①植付直後と生育期をあわせて総使用回数は2回以内。 ②砂質土で透水性のよいほ場では散布を避ける。 ③マルチ栽培では薬害を生じる恐れがあるため使用しない。

< かぼちゃ >

1 ほ場条件

- ・深根性で吸肥力が強く、乾燥にも強いですが、過湿には弱いいため、排水対策としてサブソイラ等を施工してください。
- ・土壌pHが低い場合は、pH6.0～6.5を目標に酸度矯正を行いましょう。

2 保温、保水対策

- ・「定植(は種)5～7日前」かつ「適切な土壌水分があるとき」にマルチを張り、地温と水分を確保しましょう。
- ・早い時期の定植については、べたがけやトンネルなどで霜対策を行いましょう。

3 直播栽培

- ・は種期は5/25～6/5頃が目安です。は種穴に1粒まきで、は種の深さは1～2cmとします。欠株対策として、必ず補植用苗を用意しましょう。

< にんにく >

1株から複数本の芽が出ている場合は1本のみを残して芽かきを行いましょう。遅れると、株の生育が遅れ球肥大の妨げになるので注意しましょう。